

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	6月	19日	(記入者) 東辻裕子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	東辻			
取材対象先	高取町：常楽寺の木造地藏菩薩立像				

所在地	高市郡高取町大字谷田141-1 (谷田公民館)				
所有者(取材 対応者)名	大字谷田(谷田区前区长 **様)(個人情報守秘)		連絡先 0744-52-3334(高取町役場)		
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など：高取町役場 まちづくり課				
市町村 指定文化財	彫刻	1 軀	木造地藏菩薩立像 2021(令和3)年3月31日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	針葉樹材の一木造りで10世紀後半から11世紀前半の製作と推定され、高取町内でも古像として注目される。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	公民館に安置されており、高取町の災害予防計画に基づく対策がなされている。	所見無し。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	シカ、イノシシなどが近隣田畑を荒らす被害はあるが、公民館内に入りすることはなく、特に対策もしていない。	所見無し。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	元は常楽寺の本尊であったが、寺が無住になり檀家が別の寺院に変わり、地藏尊の供養をする人が少なくなったので、谷田区の公民館に移された。公民館に安置する際に、信仰の対象とされる仏像を公共施設で管理することに対して疑問を呈する人もいたが、話し合いを繰り返し賛同を得た。今でも1月23日に初地藏、7月23日に本地蔵の年2回谷田区が主となって供養している。また、常楽寺の本堂は現存し区民が年1回境内や参道の掃除をしている。区民によって大事にされていることが伺えるが、高齢化と住民の減少でいつまで続けられるか問題が残る。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

常楽寺も仏像も地域住民にとって大切な存在であったと伺える。時代に応じた適切な仏像の保護方法を常に模索されている。かつては7月23日の本地蔵の日には花火を上げたり夜店を出したりして盛大な夏祭りになっていた。現在はこの仏像に関する昔話を広く情報発信しており、全国から参拝に来られる。住民の少子高齢化により維持管理の継続が今後の課題となる。

市町村指定文化財取材票〈裏〉

取材日	2024年	6月	19日	(記入者) 東辻裕子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	東辻			
取材対象先	高取町：常楽寺の木造地蔵菩薩立像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 木造地蔵菩薩立像	
文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	
文化財 (安置状態の全体写真)	常楽寺の風景
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入
<p>「身代わり地蔵」とも言われ、信心深く正直で働き者の男の身代わりとなって矢に射られた昔話が残る。話には続きがあり、後に刺さった矢が外れ、矢傷は長い年月で治癒したという。仏像の正面観は腹部や大腿部の膨らみを強調し、衣文の彫りは単純化されながらも線と起伏であらわされている。しかし、背面の彫りは省略されている。そのことより矢傷が治癒したと伝説が残るのであろう。</p>	<p>常楽寺は1868(明治元)年に廃寺となったが1879(明治12)年に許可を得て存続することとなった。</p> <p>当地域を谷田(やた)といい、大和郡山の矢田と音が同じで、この仏像の作者が満米上人と伝わり、共通点としてそれぞれに昔話がある。そのことより矢田地蔵信仰との関係があると言われる。しかし、印を結ぶ矢田寺の地蔵に対し、谷田の地蔵は左手に宝珠を捧げ、右手は垂下して蓮茎を執る。(現在は蓮茎を外し錫杖を持つ)</p>